

令和3年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていたるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

# 実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 小学校（11校）全体

令和3年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

↓

【武雄市 小学校】

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H28入学 現6年生	61.9 (0.98)	/	49.7 (0.95)	/
	/		61 (0.94)	
R3 正答率の全国比		0.94	/	0.95

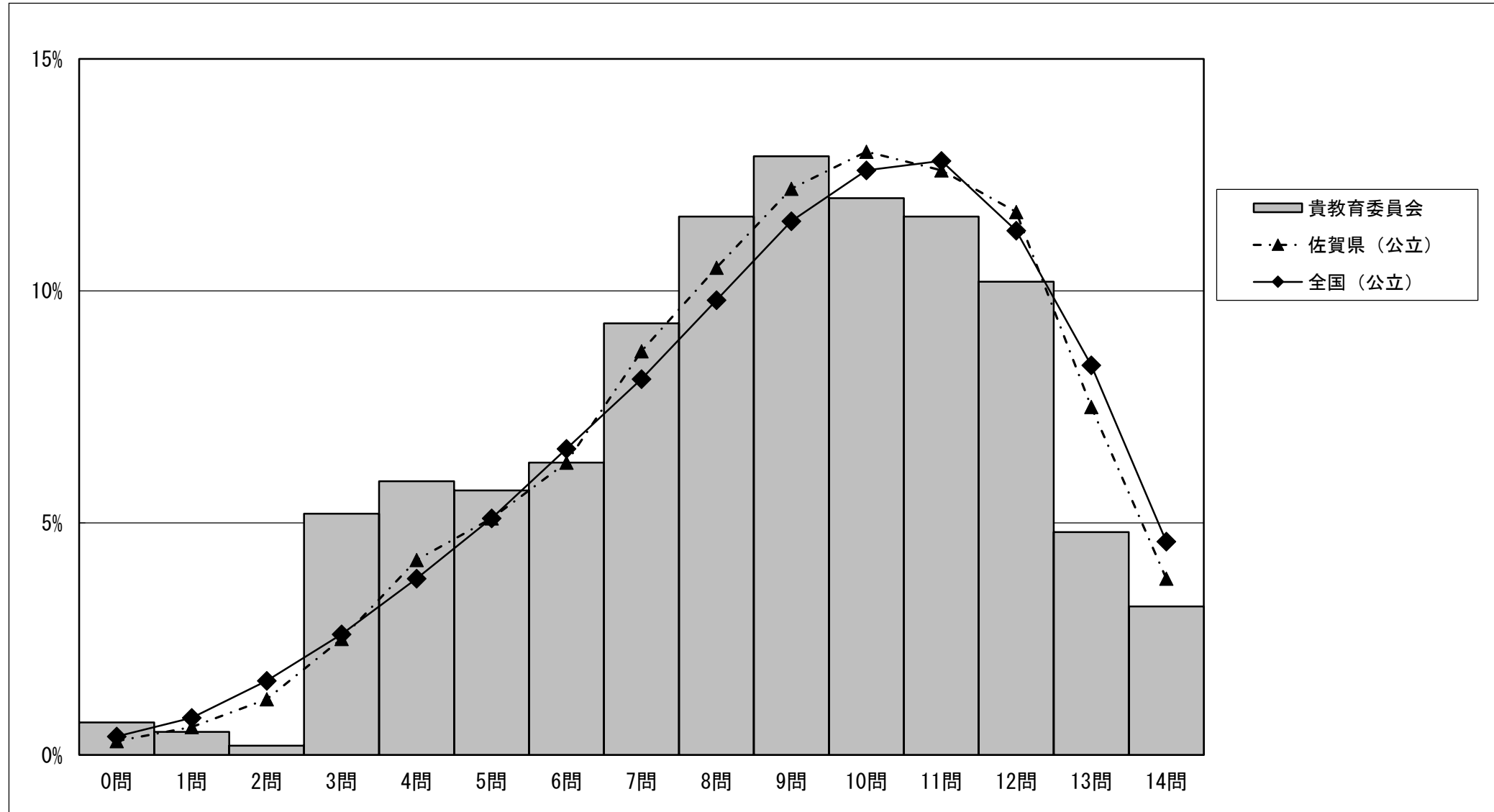
↓

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

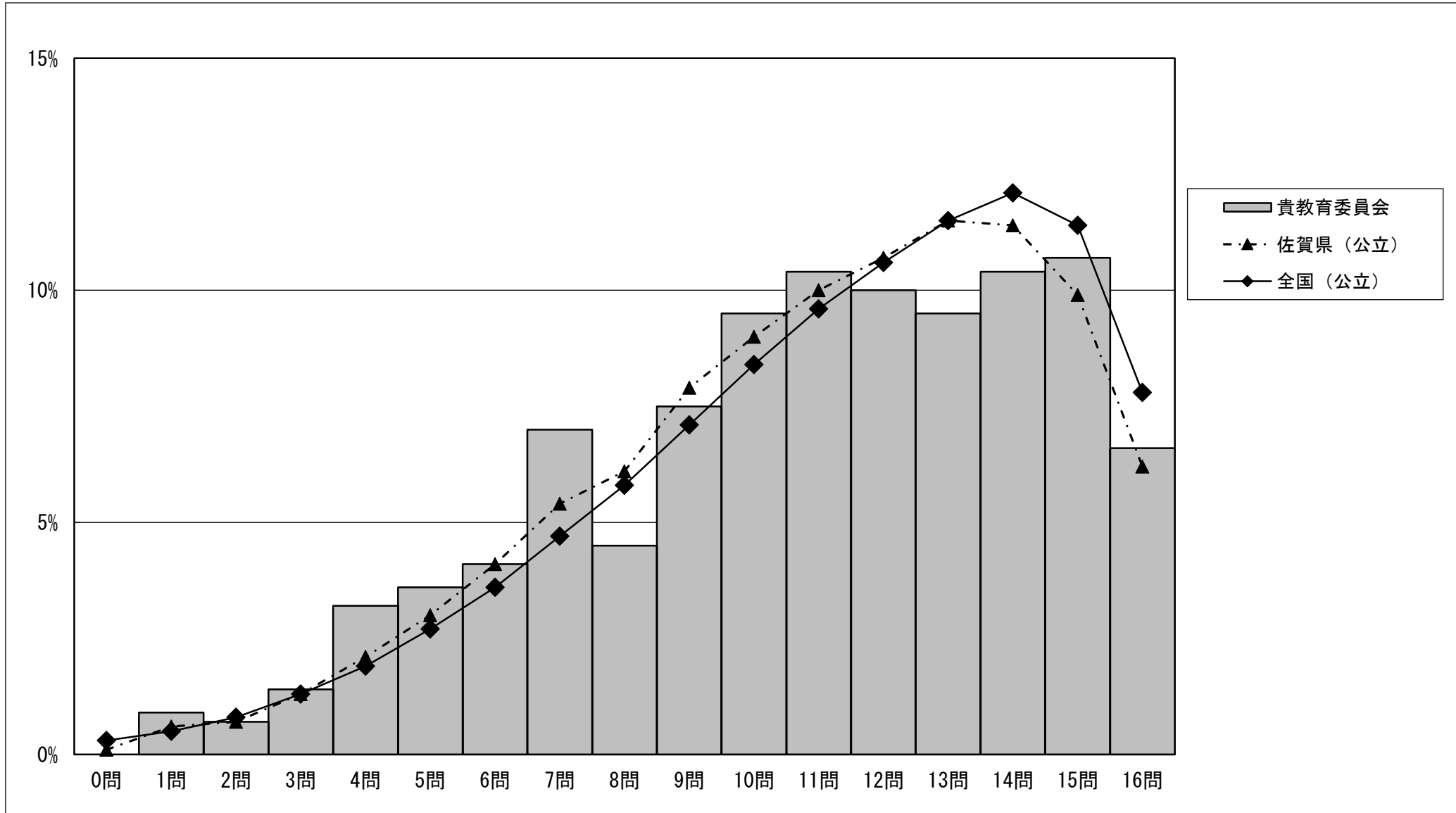
◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

# 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6国語）



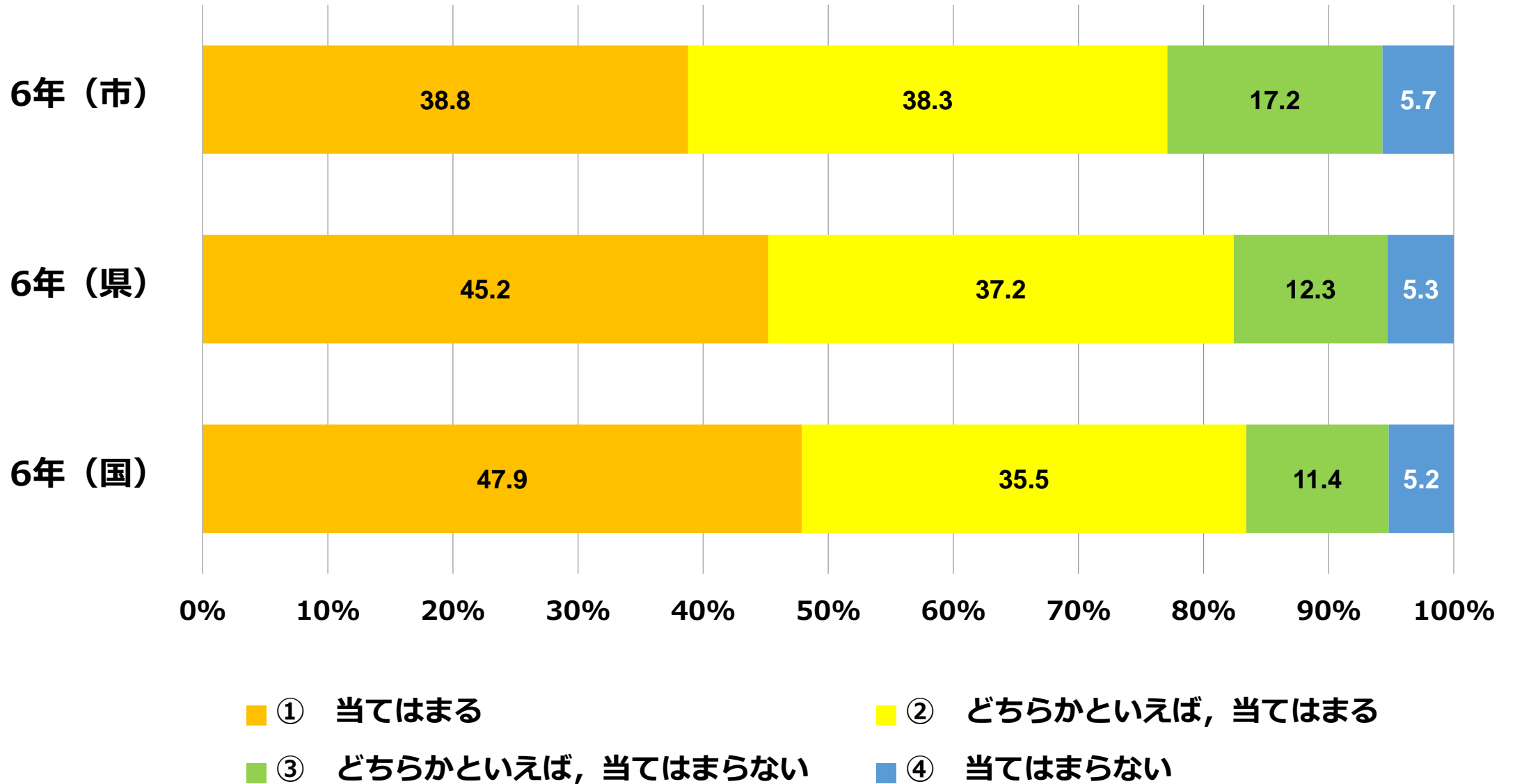
文部科学省 令和3年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

# 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6算数）

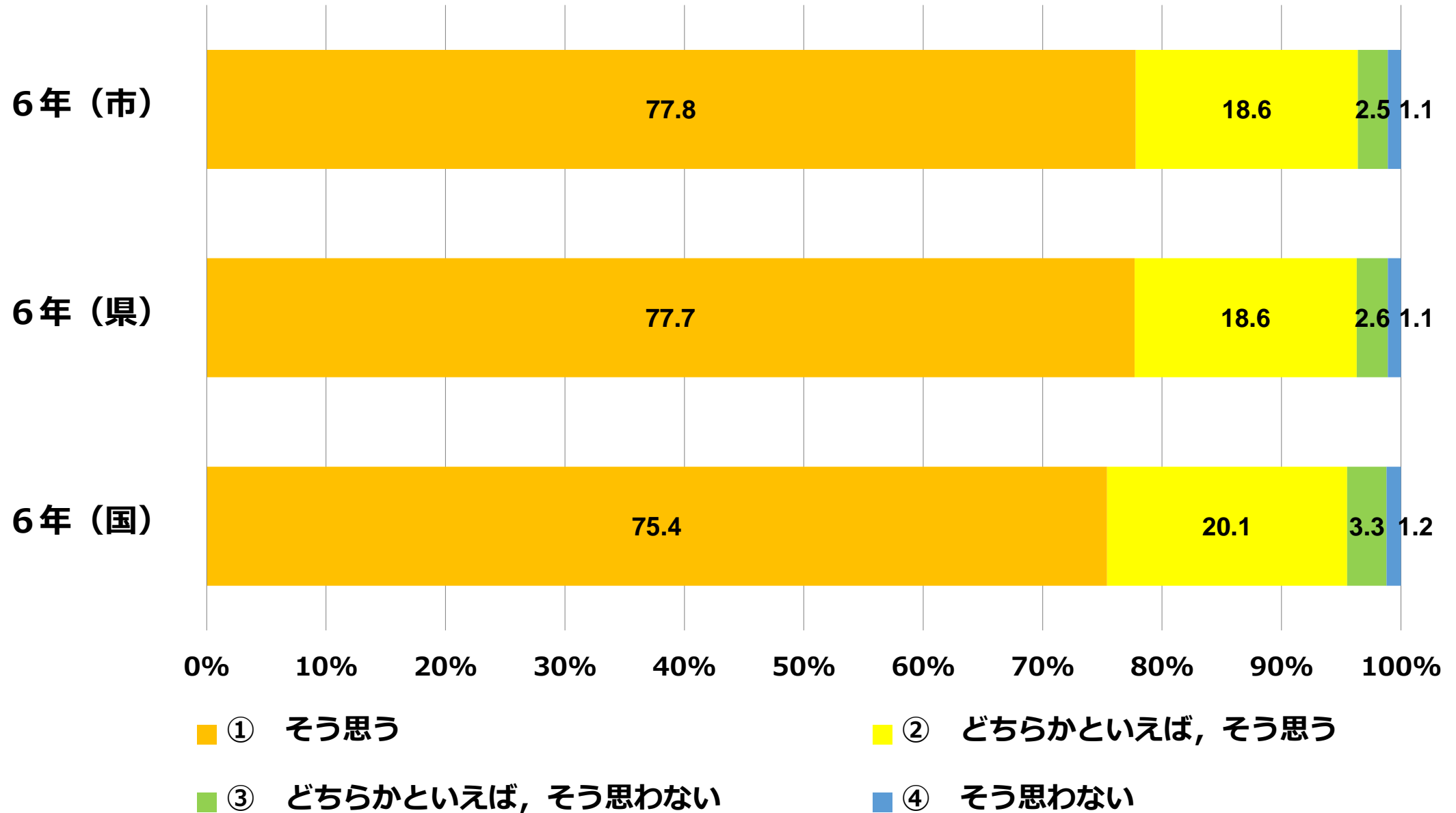


文部科学省 令和3年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

# 学校に行くのは楽しいと思いますか

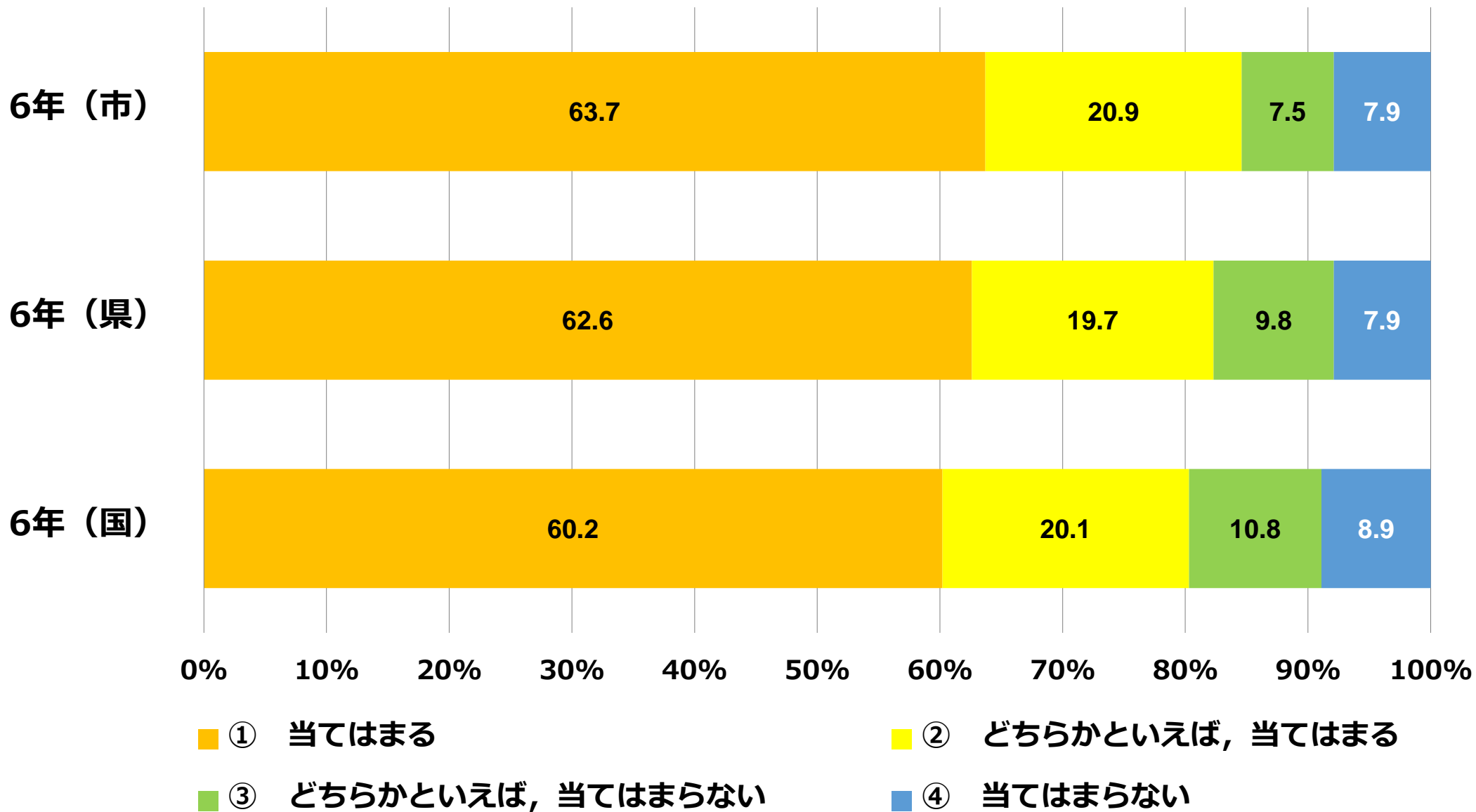


# 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

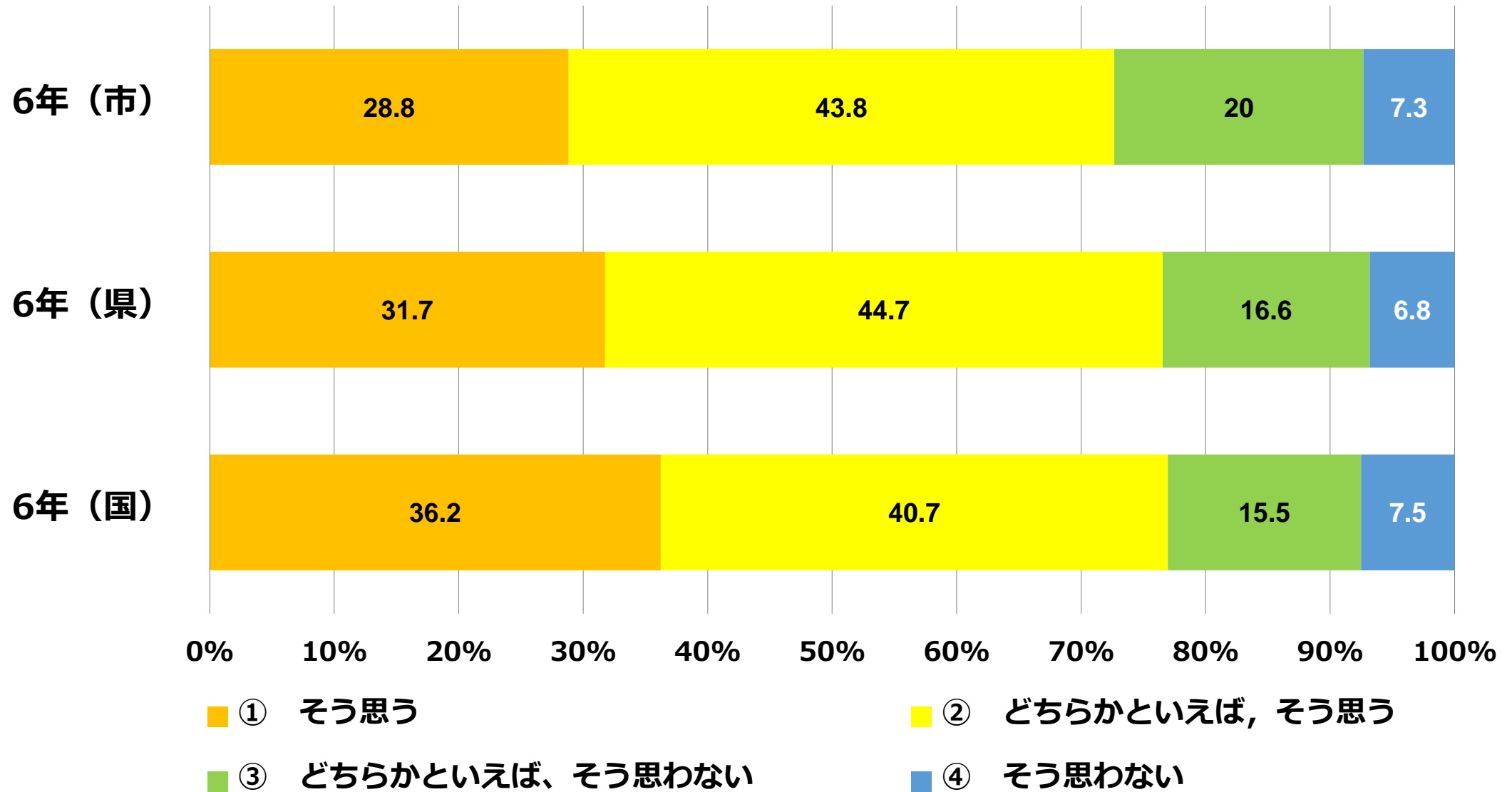




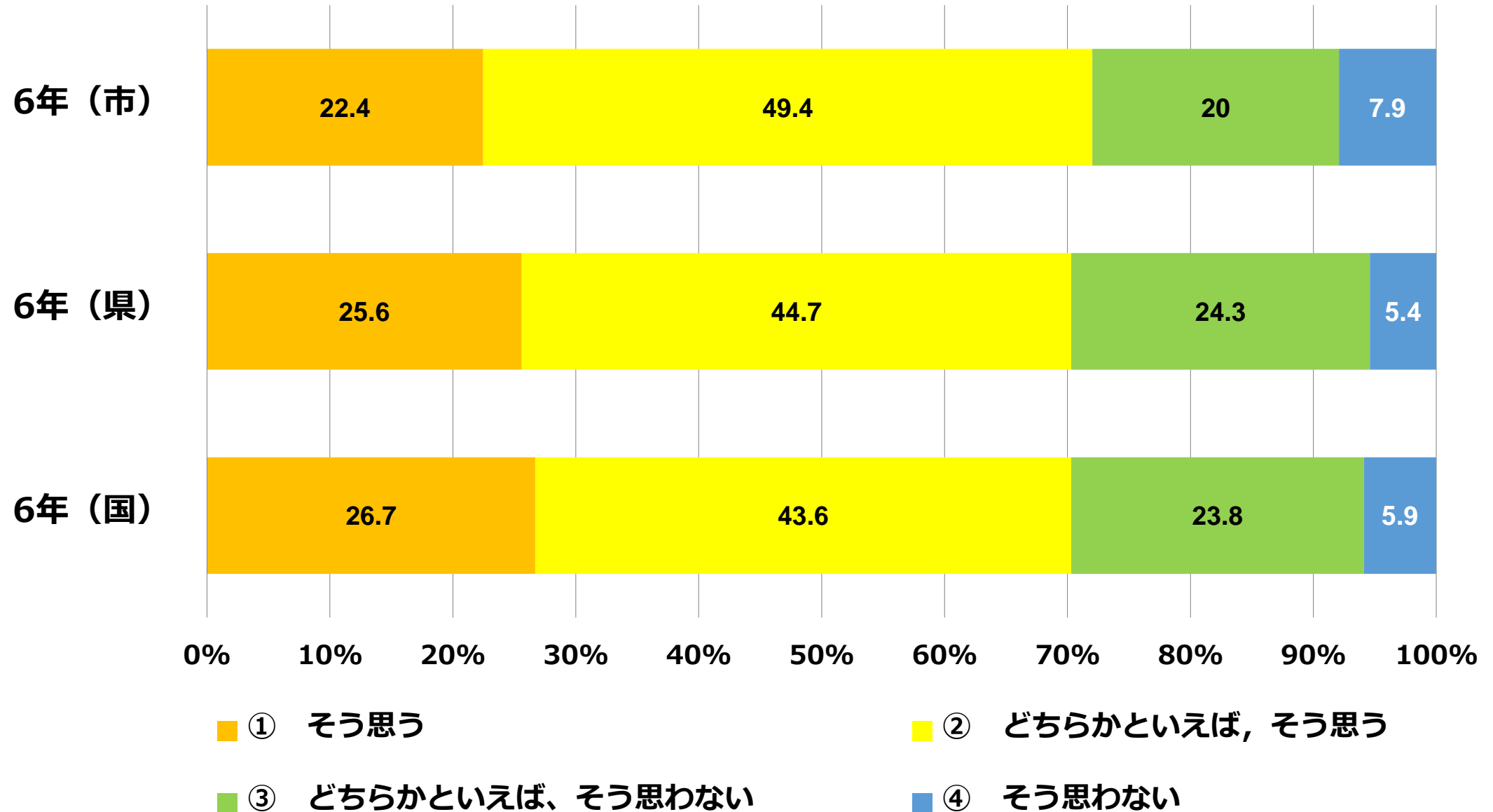
# 将来の夢や目標を持っていますか



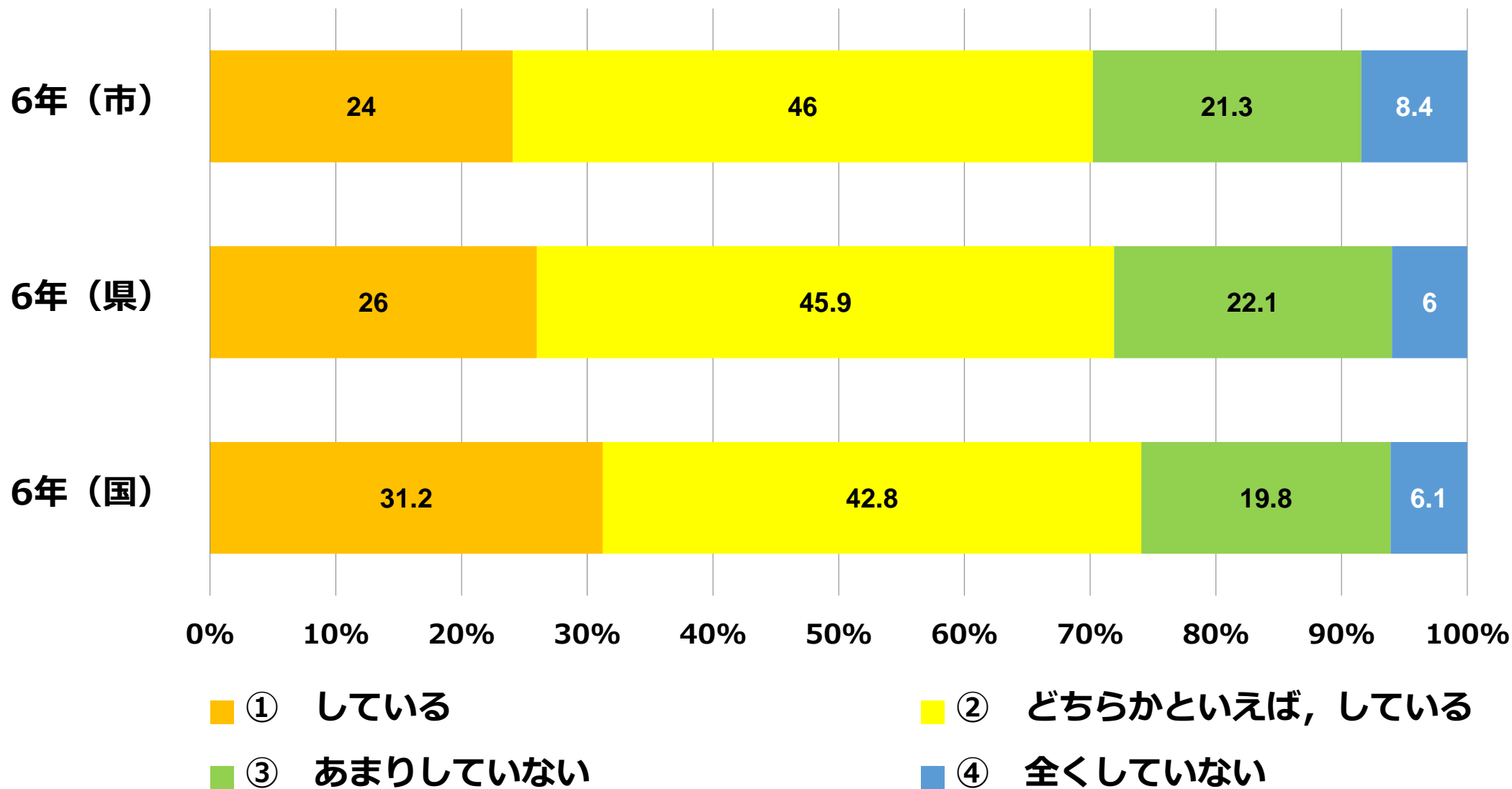
# 自分には、よいところがあると思いますか



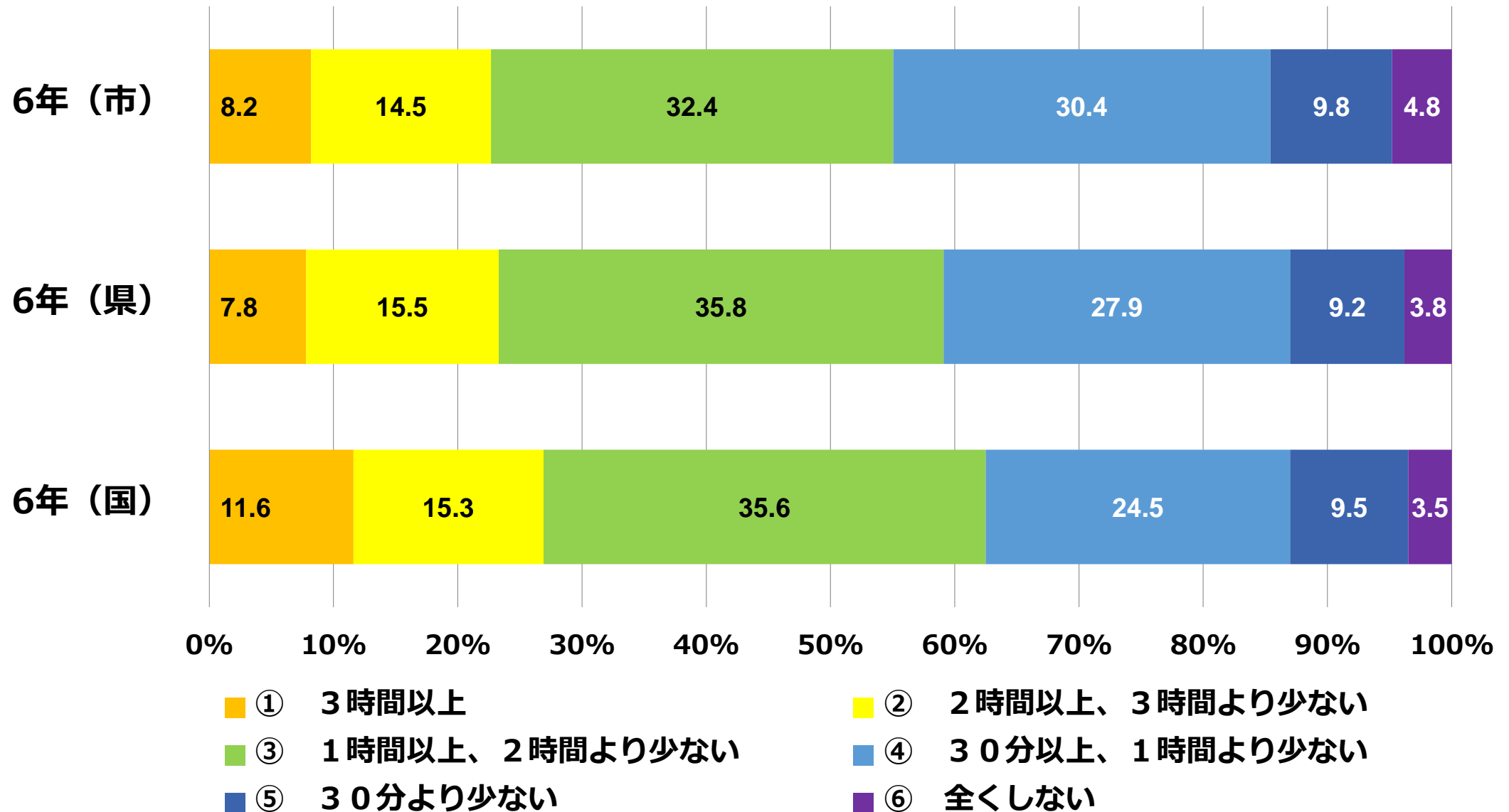
# 自分の思っていることや感じていることをきちんと自分の言葉で表すことができますか



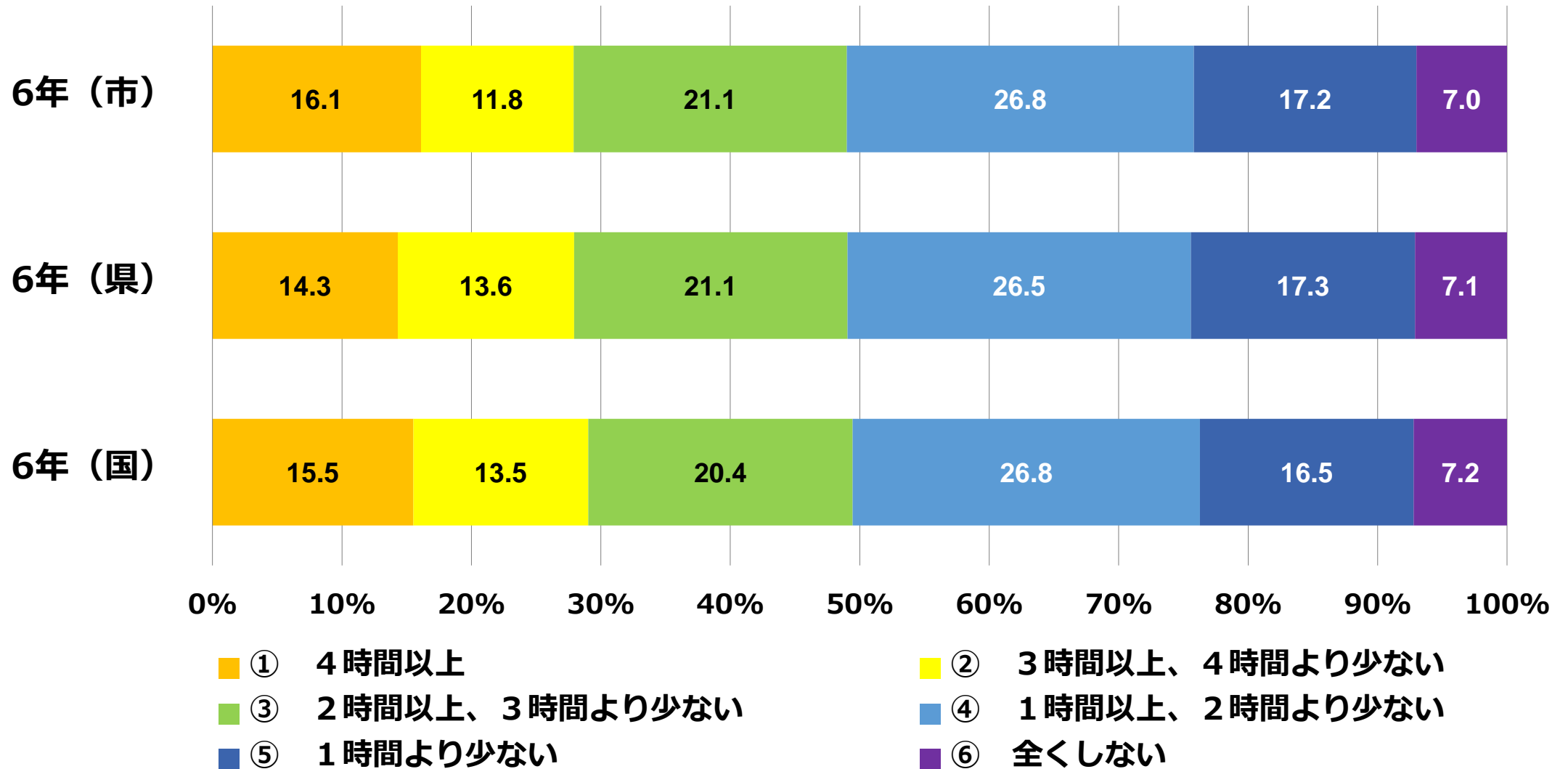
# 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



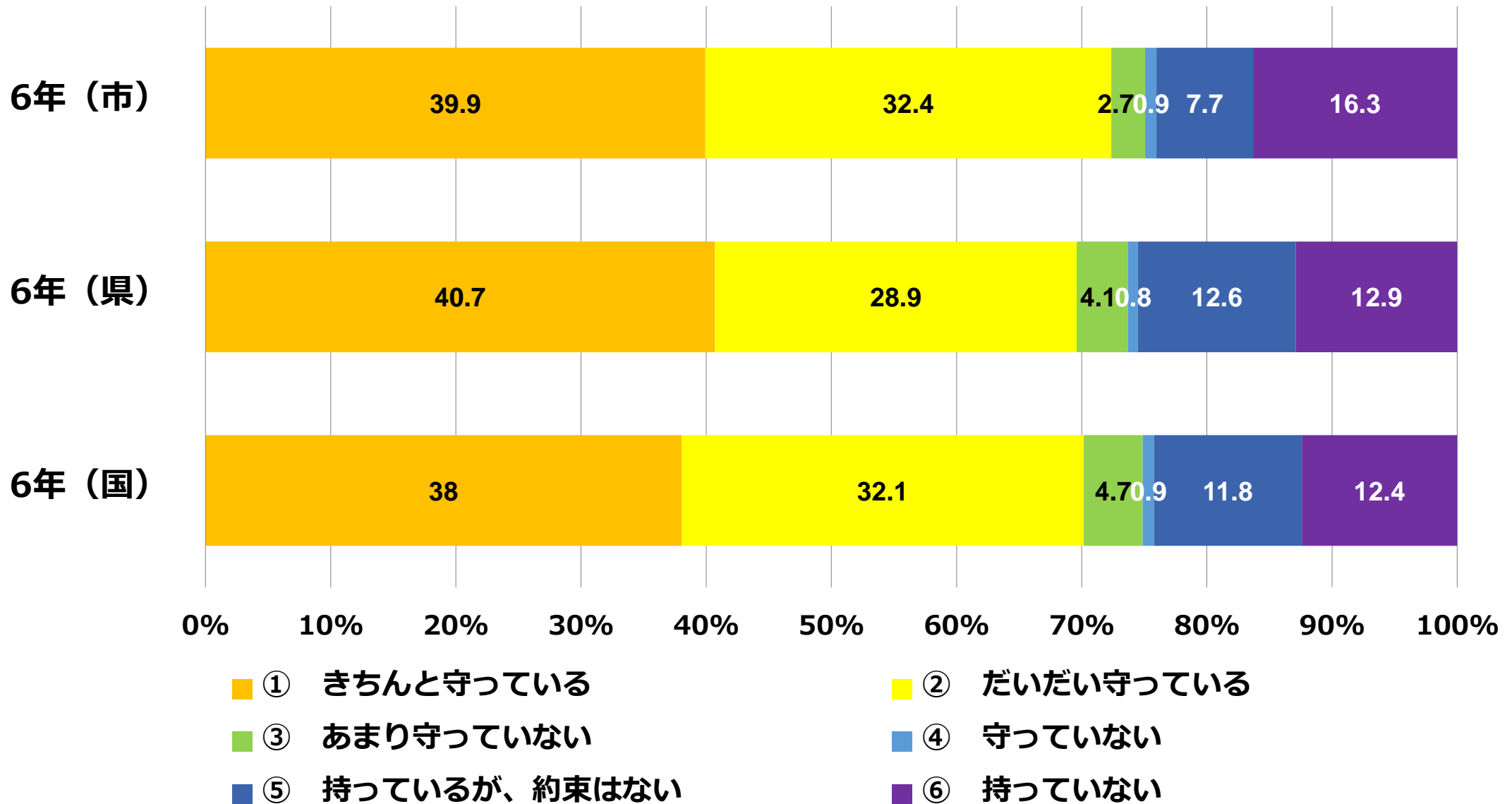
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



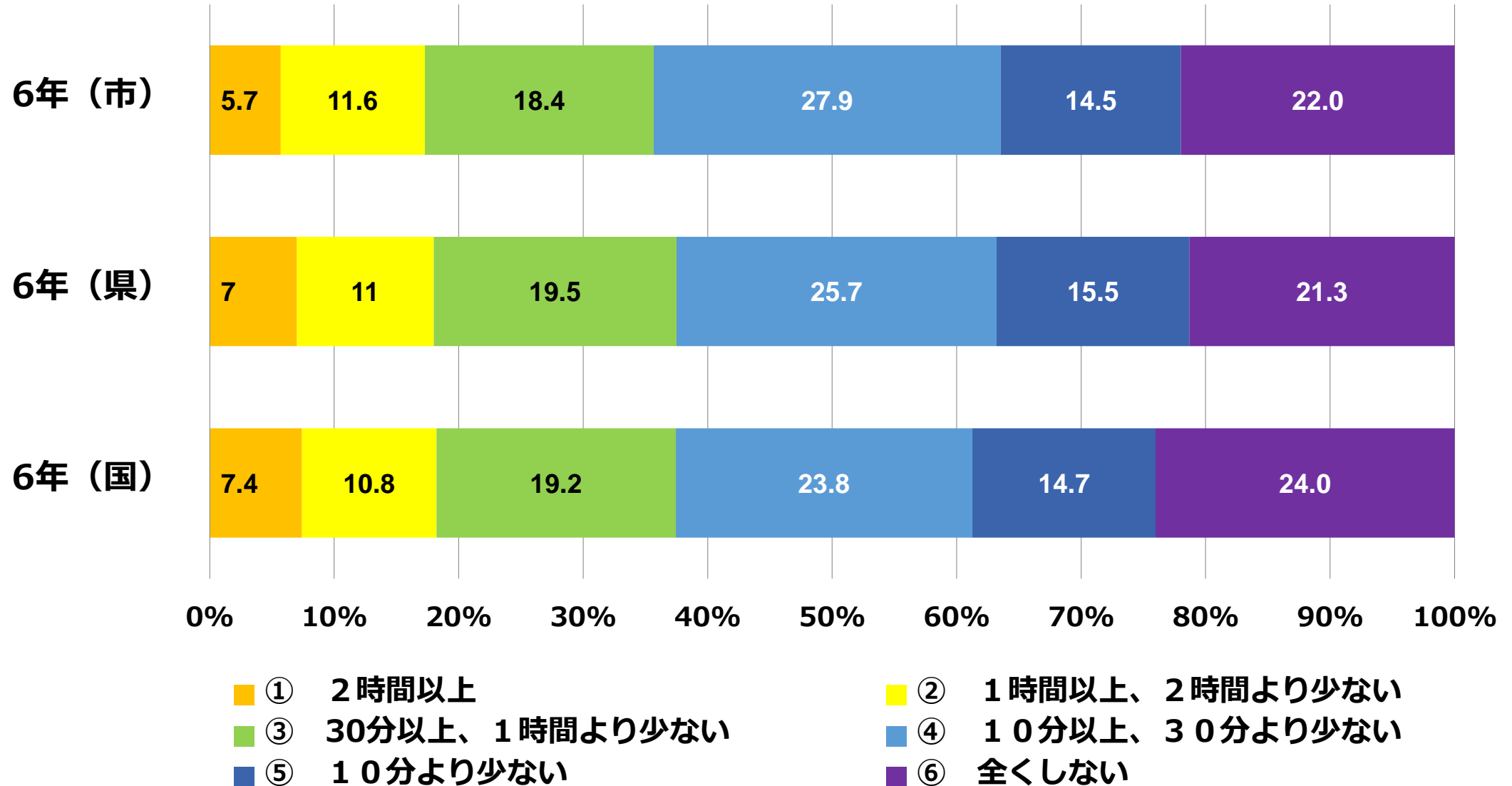
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしていますか



# 携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

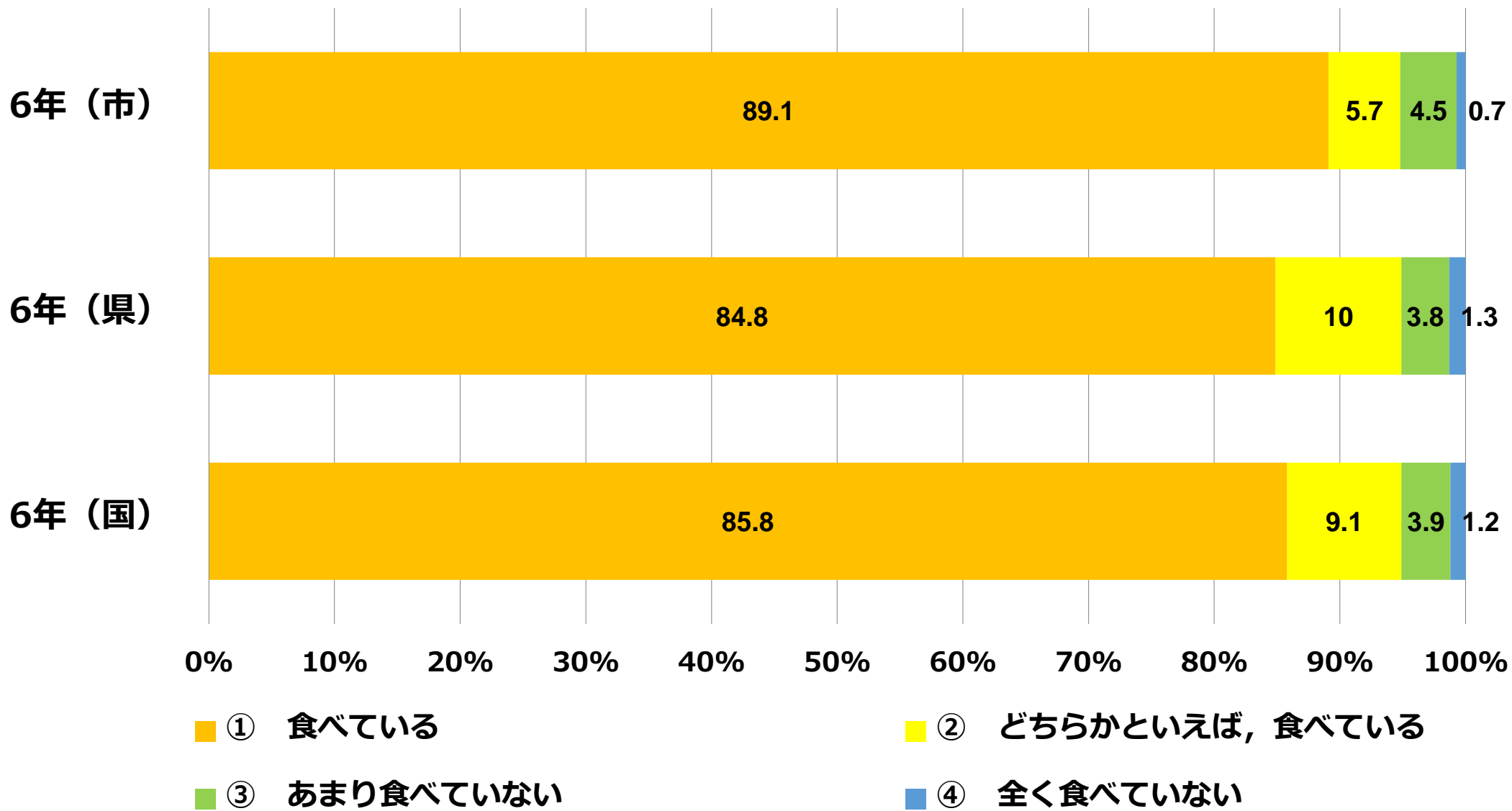


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）





# 朝食を毎日食べていますか



## (2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（小学校）

- 国語の調査では、全国比、県比ともに0.06下回った結果であった。算数は、全国比0.05、県比0.03下回った結果であった。
- 国語の正答数分布グラフでは、高得点層が全国・県共に下回っている。一方、中・低得点層は若干上回っており、中・低得点層の底上げが必要である。算数の正答数分布グラフでは、最高得点層が全国は下回っているが、県は上回っていた。しかし、高得点層全体を見ると、全国、県共に下回っており、高得点層の底上げが必要である。
- 意識調査の「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対しては、県を2.3ポイント、4.5ポイント上回っていた。
- 意識調査の「自分にはよいところがありますか」という質問に対しては、県を3.8ポイント、全国を4.5ポイント下回っており、自己肯定感に課題が見られた。
- 意識調査の「学校の授業時間以外で1日当たりどのくらい勉強しているか」という質問に対して、1時間以上学習していると回答した割合が、県を2ポイント、全国を7.2ポイント下回っていた。また、約70%の児童は自分で計画を立てて勉強しているが、約30%の児童は、自分で学習する際、計画を立てていない。
- 意識調査の「普段、1日にどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問に対して、県や国とほぼ同様の結果であったが、約半数の児童が、平日に、1日2時間以上ゲームをいっている。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対しては、肯定的回答をした児童が約70%おり、県や国を上回った結果であった。
- 意識調査の「学校の授業以外に、普段、どれくらい読書をしていますか」という質問に対しては、約60%の児童が10分以上読書をしていると回答したが、約20%の児童は、読書を全くしないと回答していた。

## 2 改善に向けた具体的な取組

**【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】**

### ○学習状況調査結果を受けて

- 正答数分布グラフに見られるように、低得点層の底上げと高得点層の拡大が課題である。調査対象学年だけでなく、低学年からの学力向上について研修を行い、実践していく。
- 誤答分析を行って、課題を見つけ、授業や宿題等で補充学習する機会を必ず設ける。
- 新学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法の改善や職員の指導力向上に努める。
- タブレットドリルを活用し、基礎学力の向上を図る。
- 武雄市では、県の指定や委託を受けて、研究、実践に取り組んでいる。指定校や実践校での取組を市内の小中学校に広げるために、公開授業等への積極的な参加を奨励する。

## ○意識調査の結果を受けて

- 学校に行くのが楽しくないと思う児童が約20%おり、自己肯定感にも課題が見られたことから、今後も家庭と連携しながら、個々の児童の良さを認めたり、活躍の場を設けたりして児童一人一人の居場所づくりを進めていく。
- 「自分で計画を立てて勉強する」習慣をつけるために、計画を立てて学習することの大切さについて各学校でさらに指導していくとともに、各学校で配布している家庭学習の手引きを一層活用していく。また、「計画を立てて勉強している」と回答した割合は約70%いたが、平日「家庭学習を1時間以上している」児童の割合は60%未満であることから、自分の学習計画と実際の学習時間の相関関係についても、児童自身が振り返る機会を設ける。
- 約半数の児童が平日に1日2時間以上テレビゲームをしているが、約70%の児童が「携帯電話やスマートフォンの使い方の約束を守っている」と回答しているため、今後もその使い方については、家庭と連携して進めていきたい。
- 児童の読書時間をさらに増やすために、各学校でさらに読書の奨励を行うとともに、武雄市図書館や子ども図書館と連携し、イベントの紹介を積極的に行い、読書への興味・関心を高めていく。

# 実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 中学校（5校）全体

令和3年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

【武雄市 中学校】

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

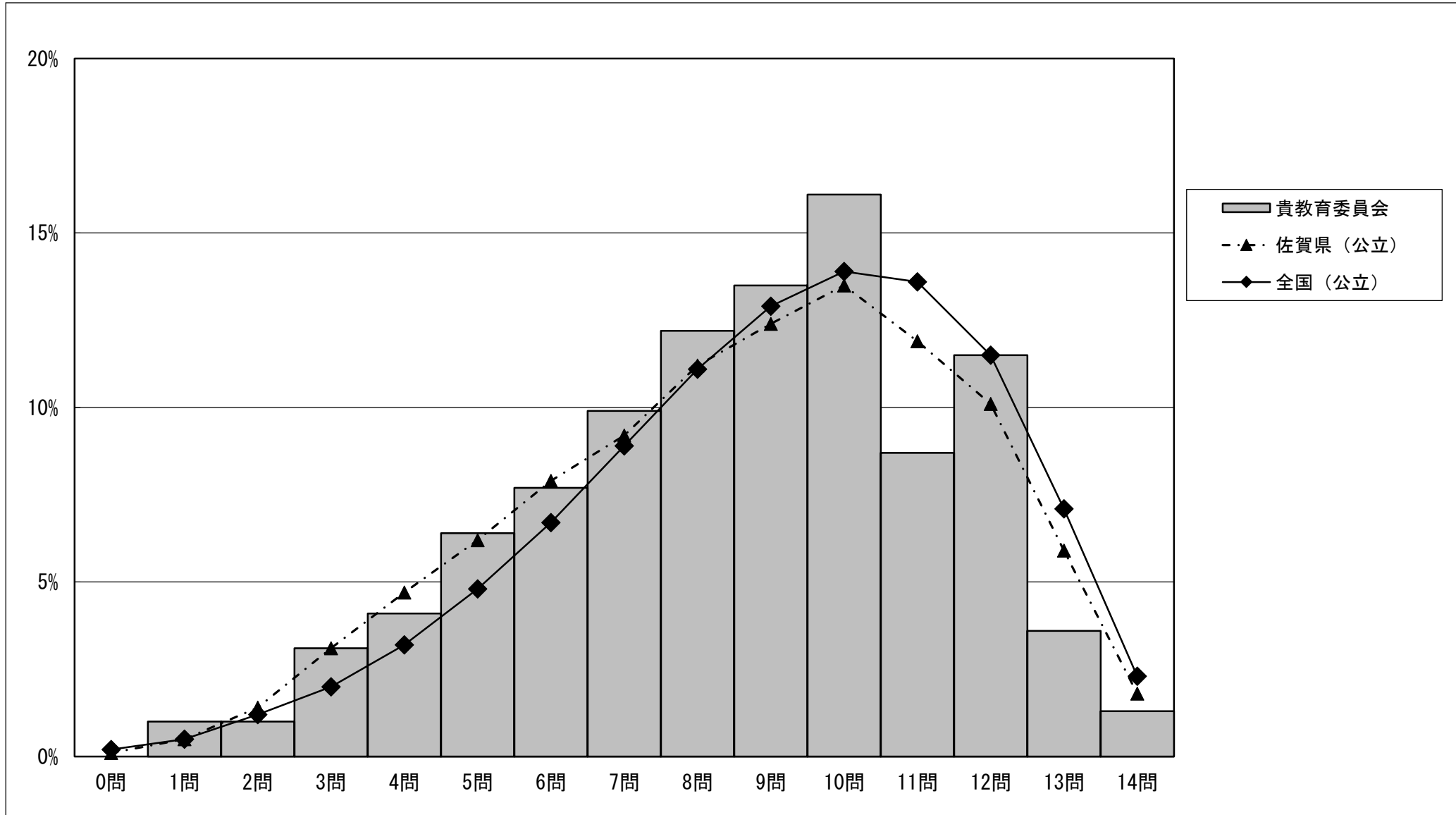
	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元入学 現3年	67.0 ----- (0.99)			57.5 ----- (0.92)		
		61.2 ----- (0.99)			49.2 ----- (0.98)	
			61 ----- (0.98)			55 ----- (0.98)
R3正答率の全国比			0.94			0.96

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

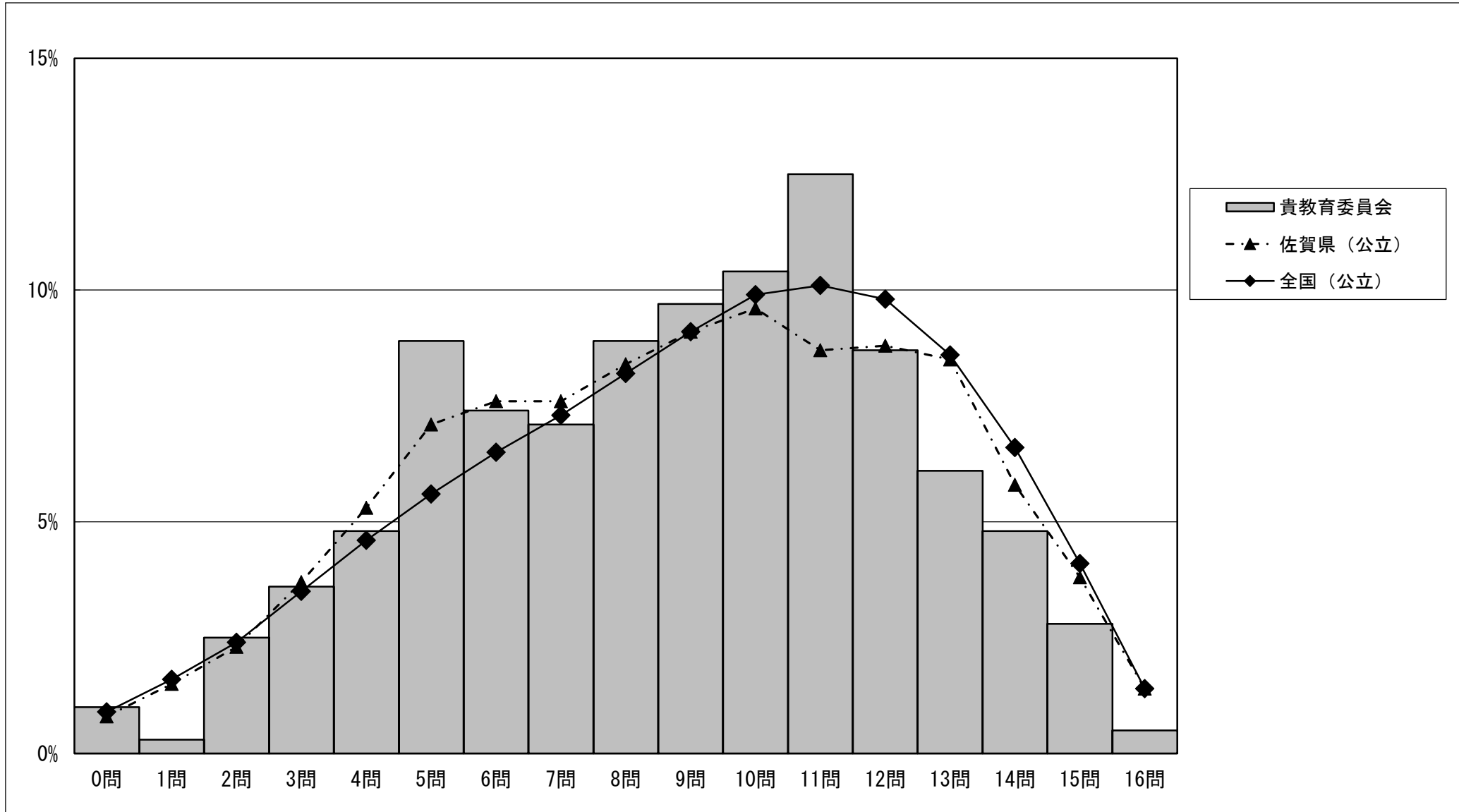
◎ 「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

# 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3国語）



文部科学省 令和3年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

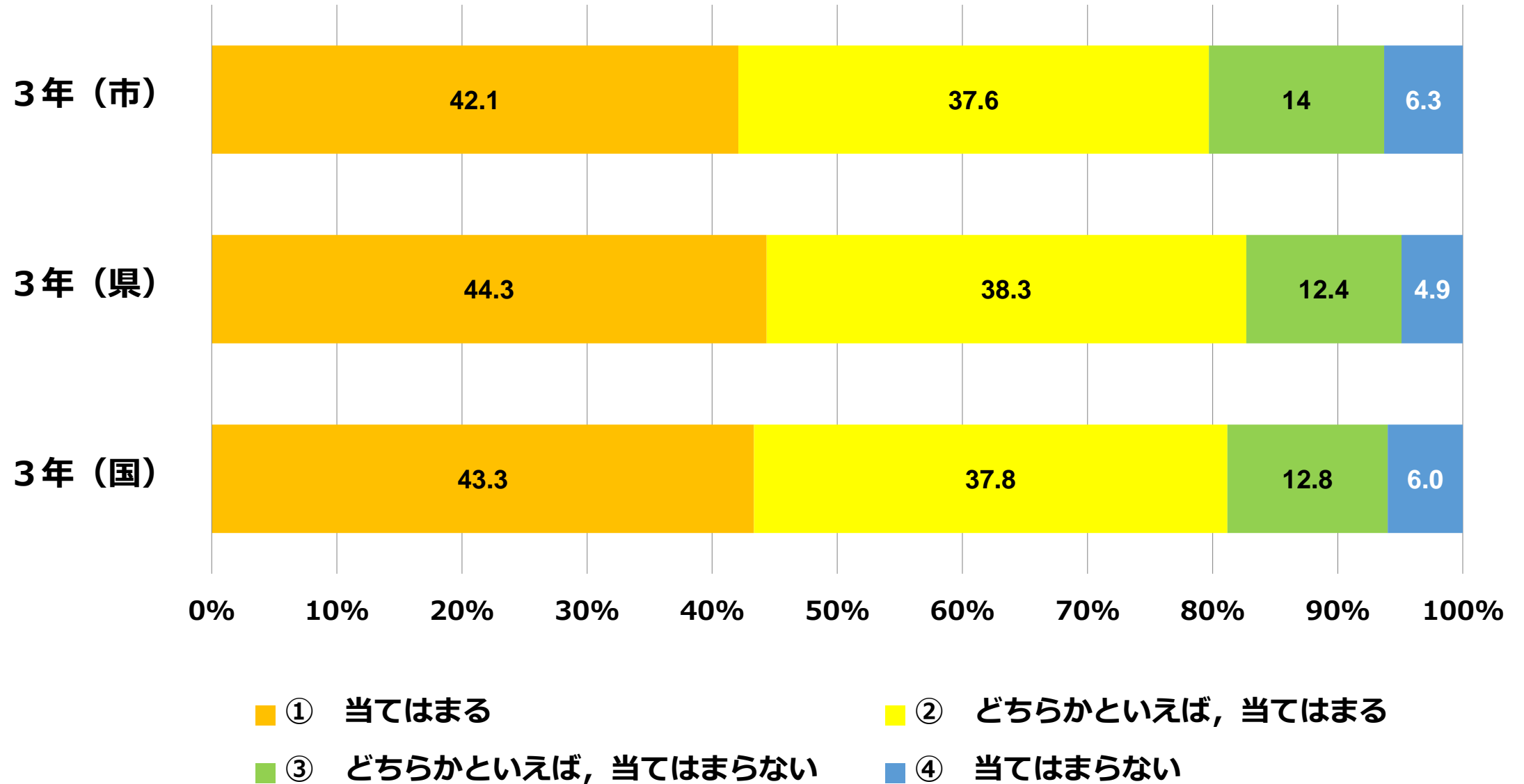
# 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3数学）



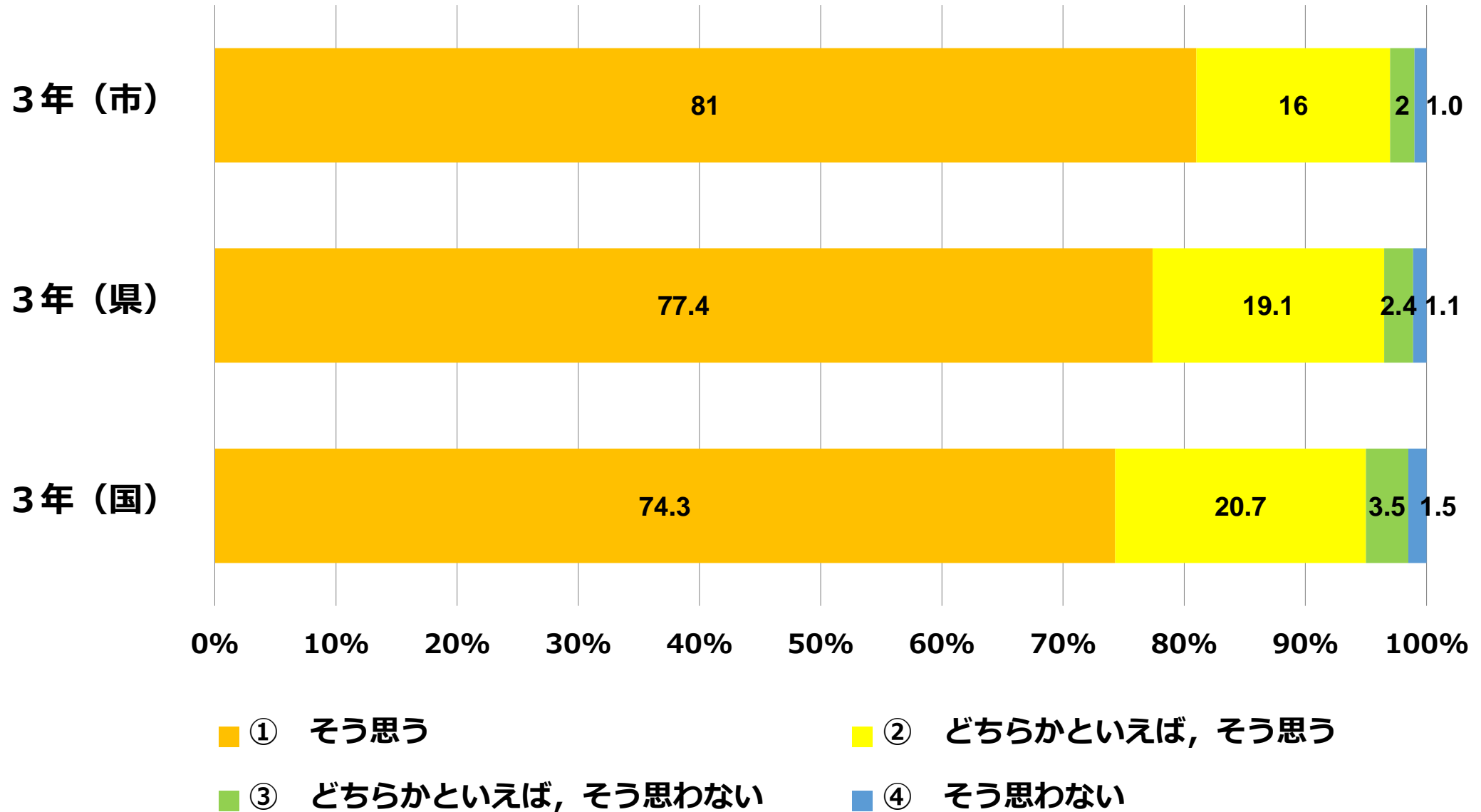
文部科学省 令和3年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より



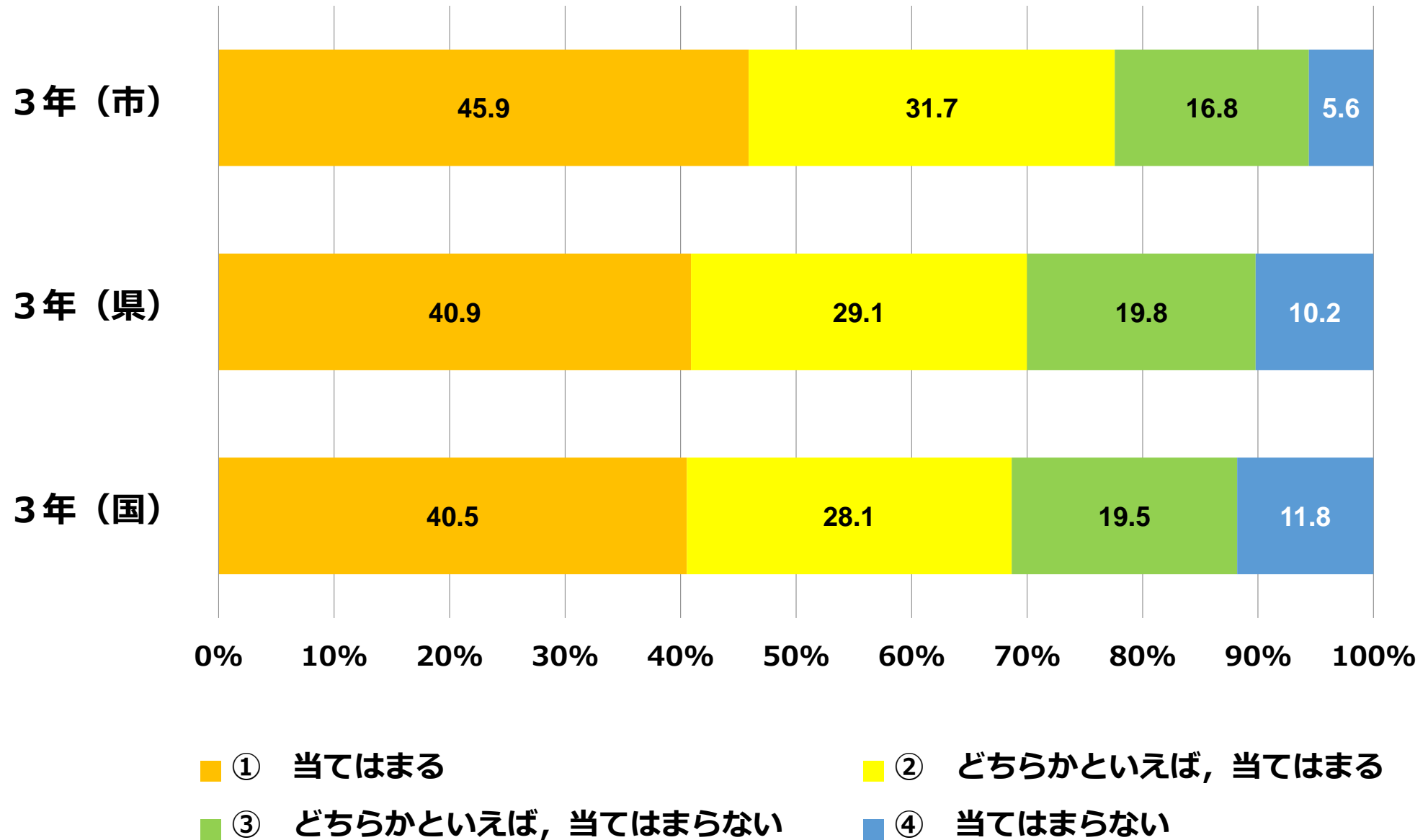
# 学校に行くのは楽しいと思いますか



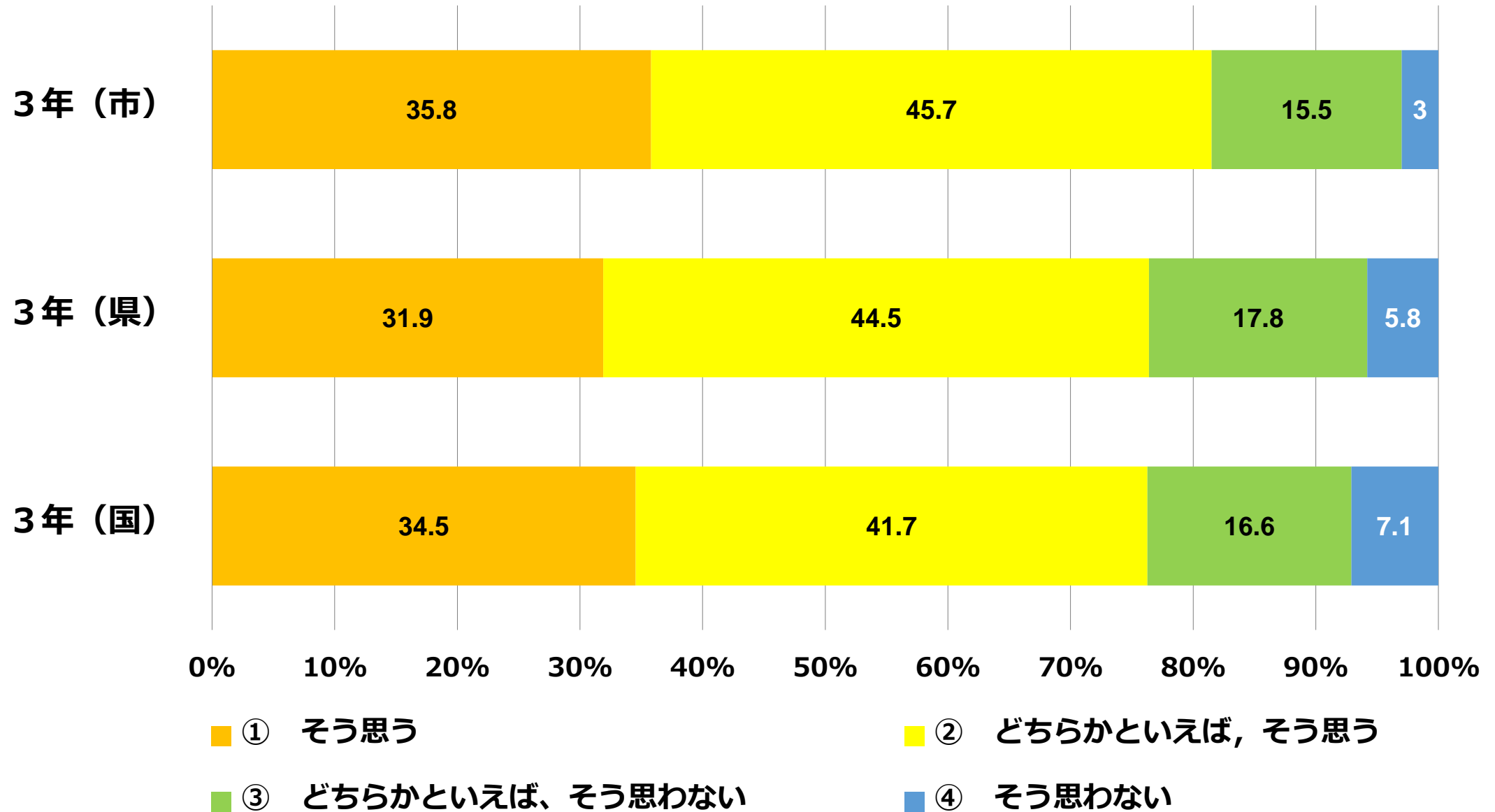
# 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



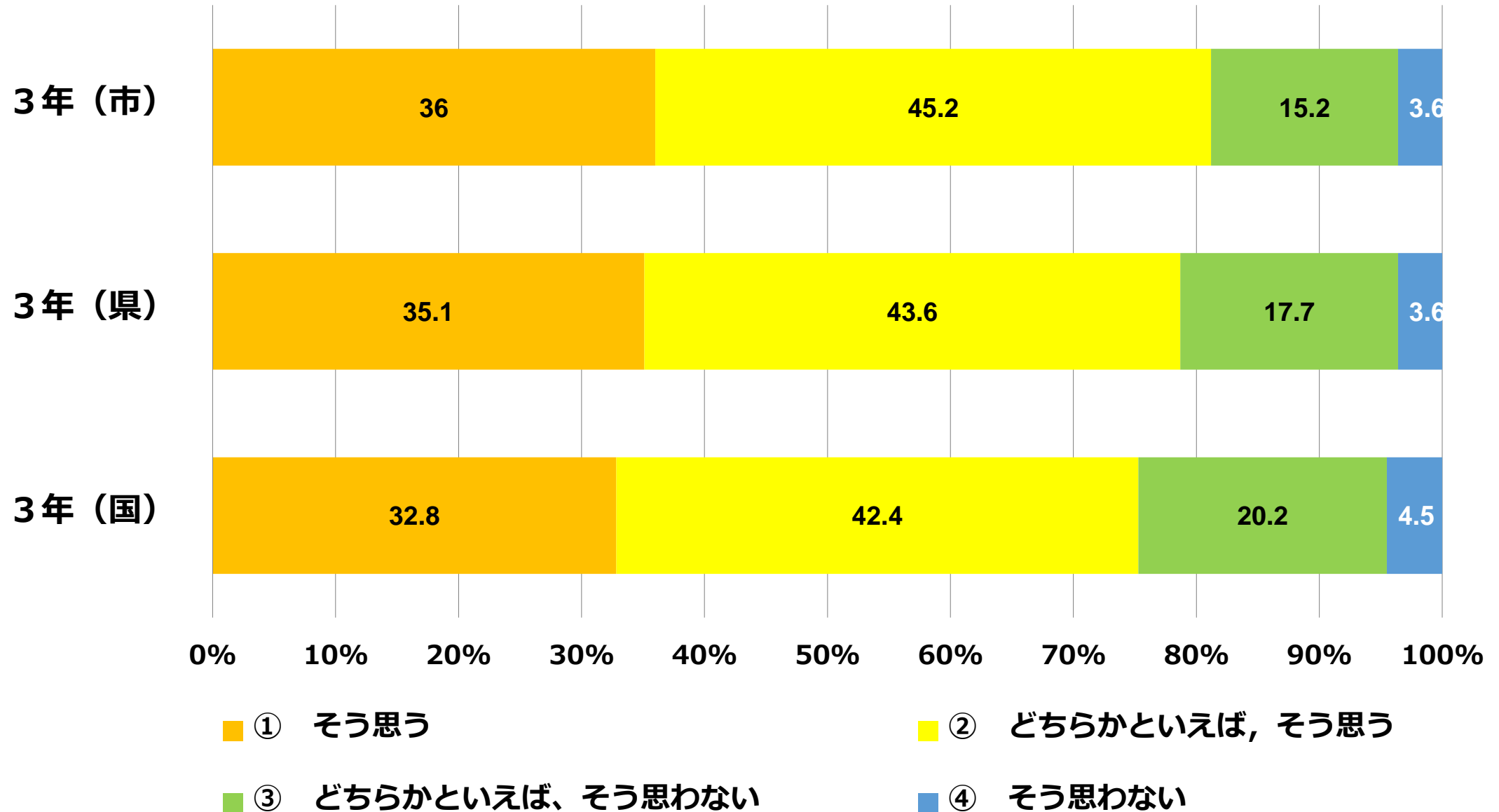
# 将来の夢や目標を持っていますか



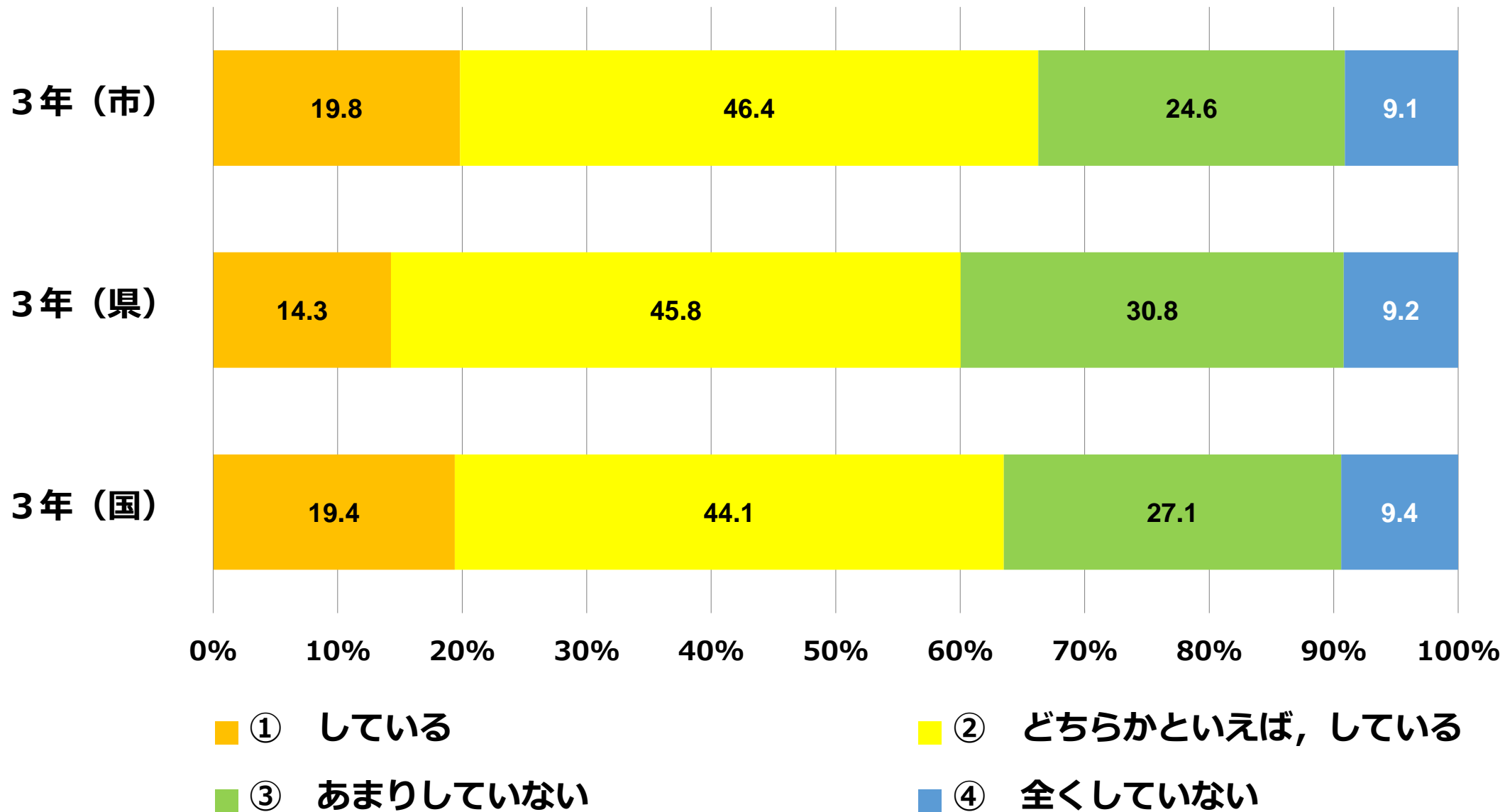
# 自分には、よいところがあると思いますか



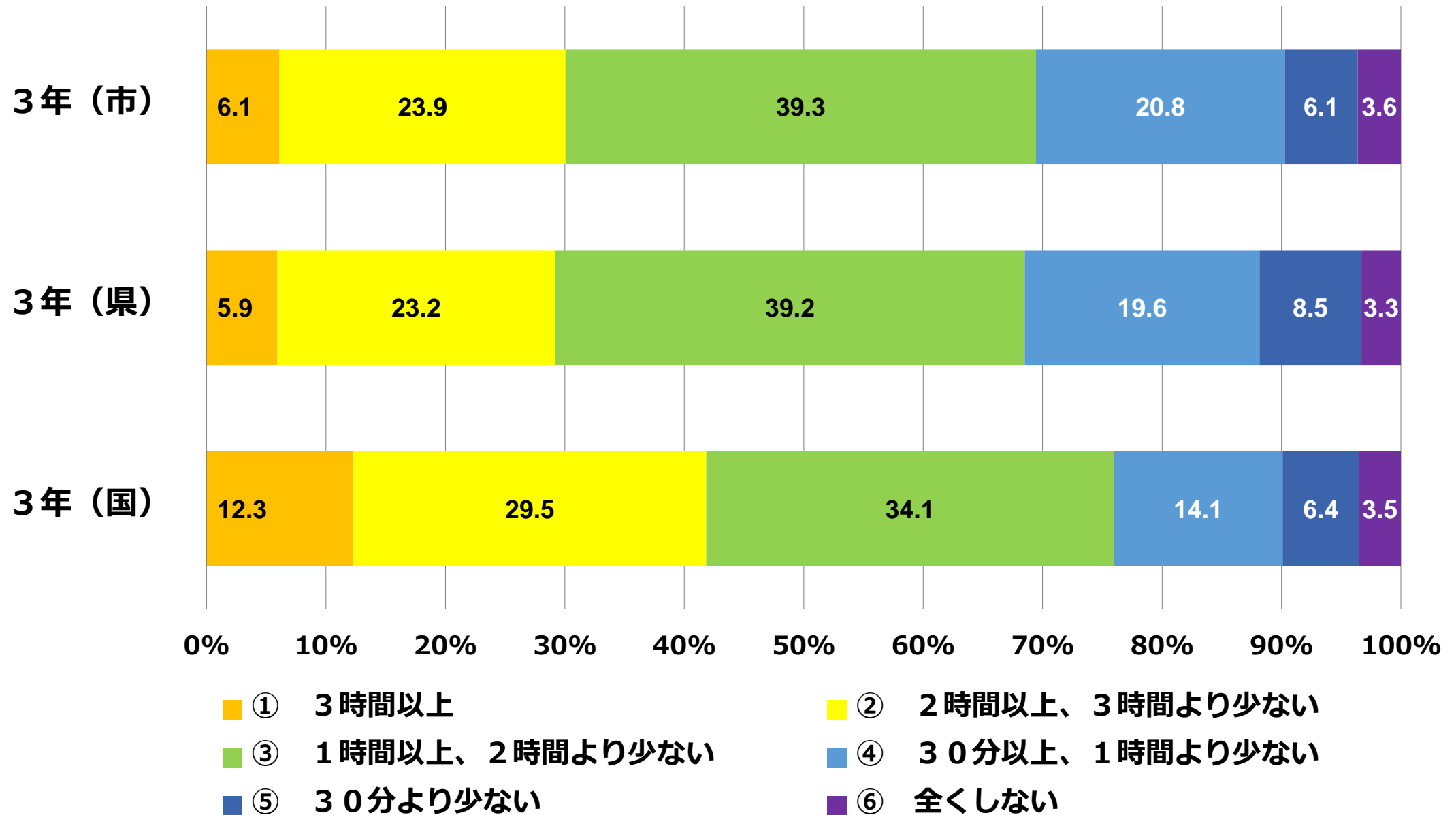
# 自分の思っていることや感じていることをきちんと自分の言葉で表すことができますか



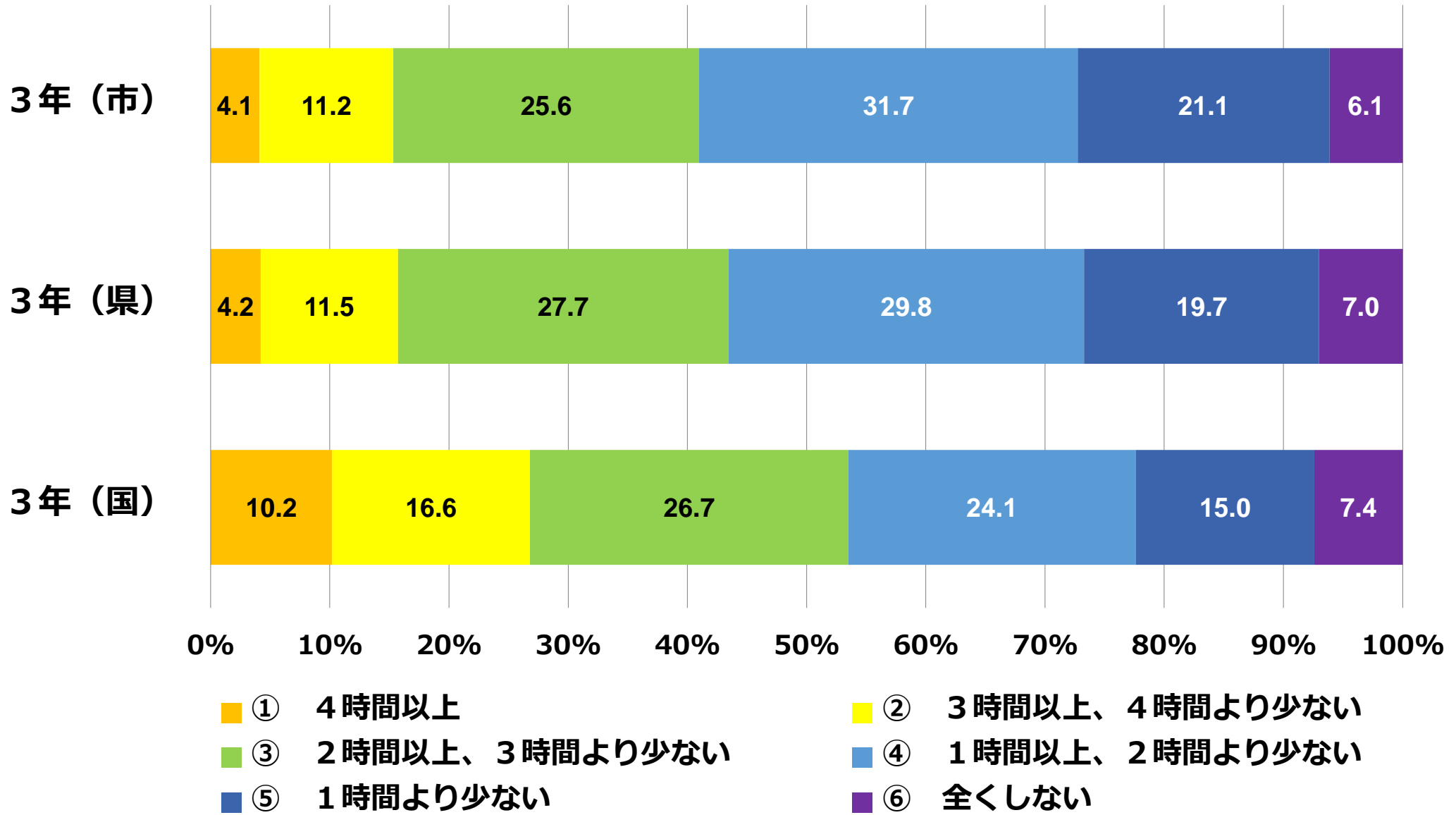
# 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

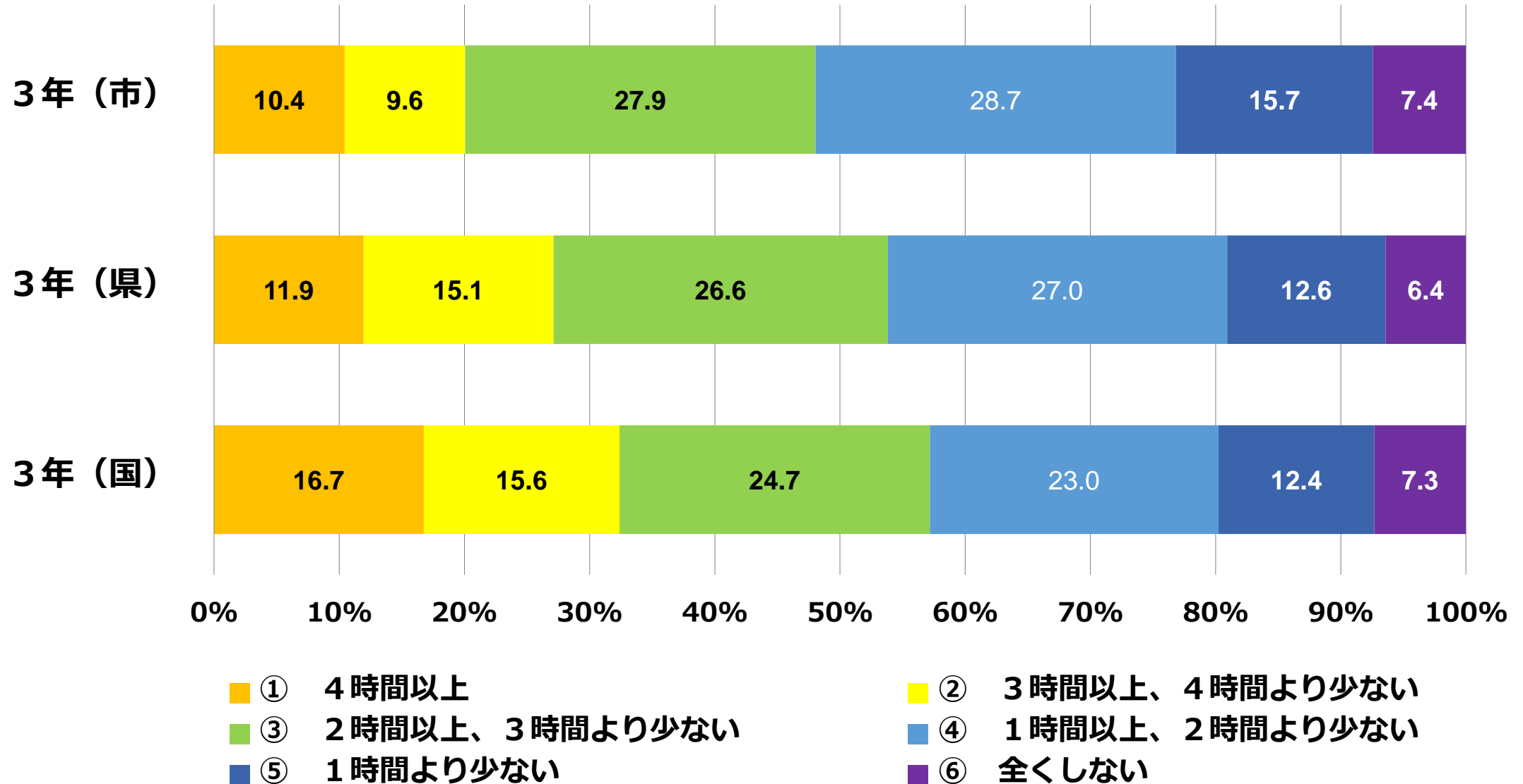


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

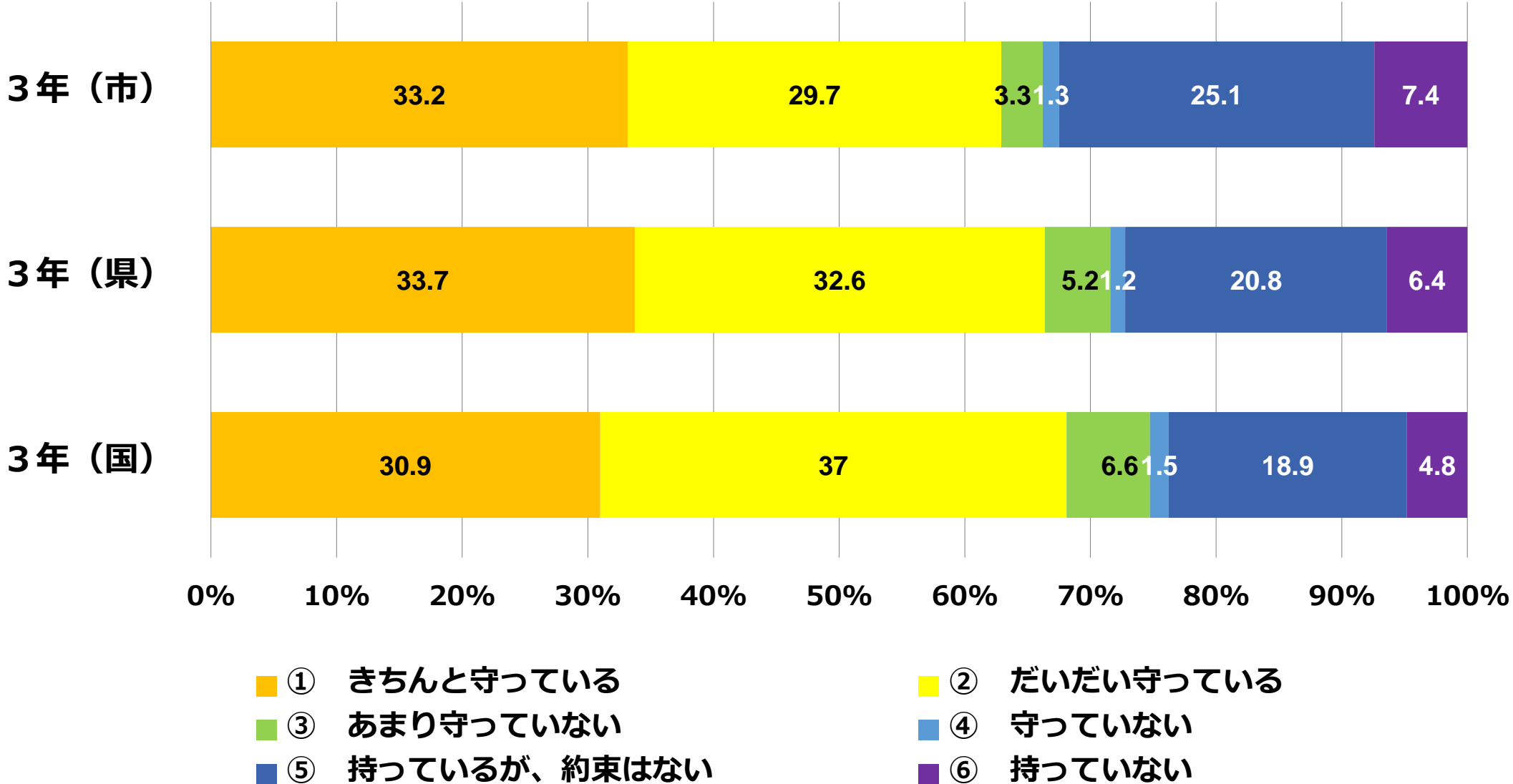




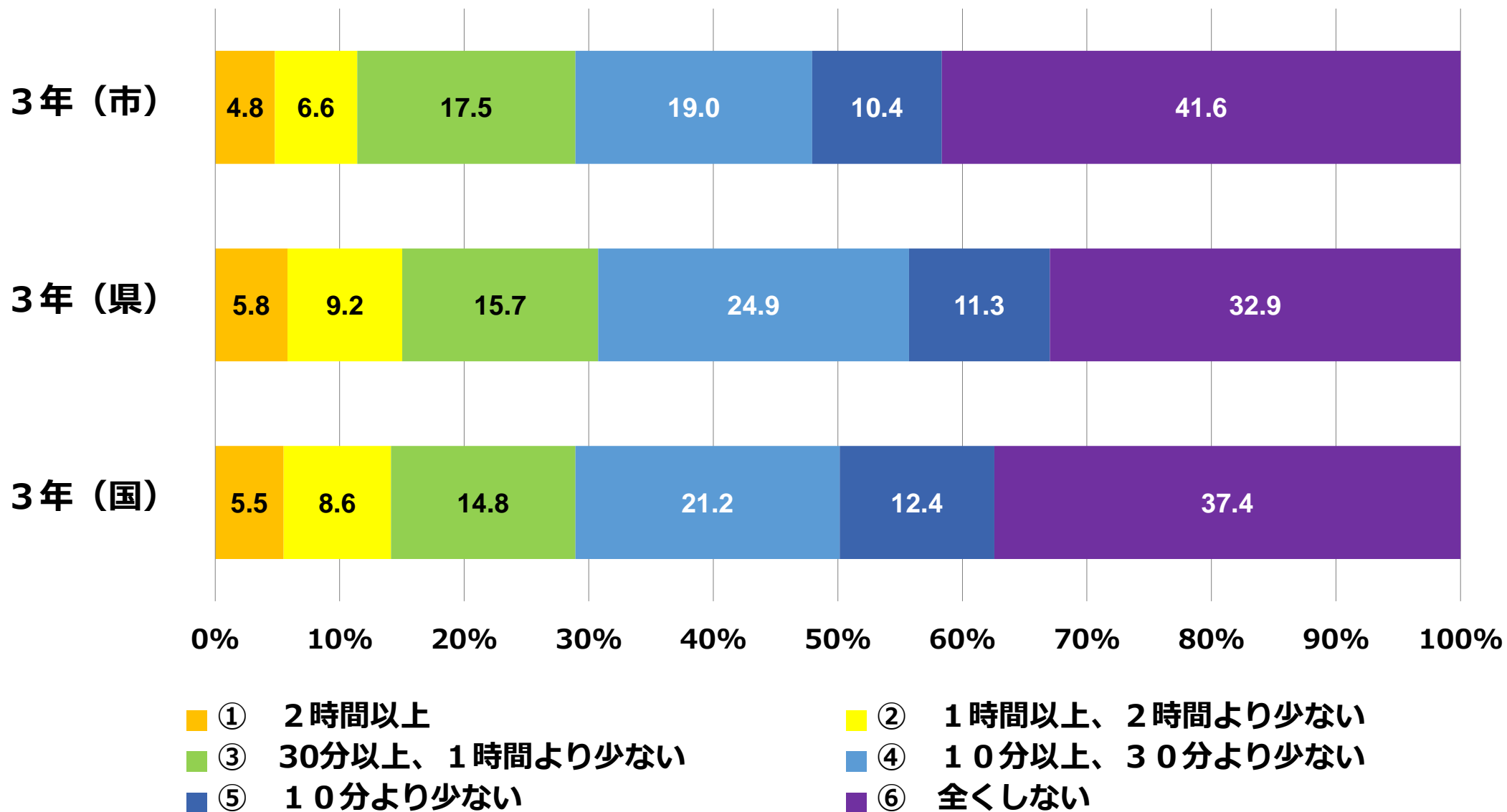
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしていますか



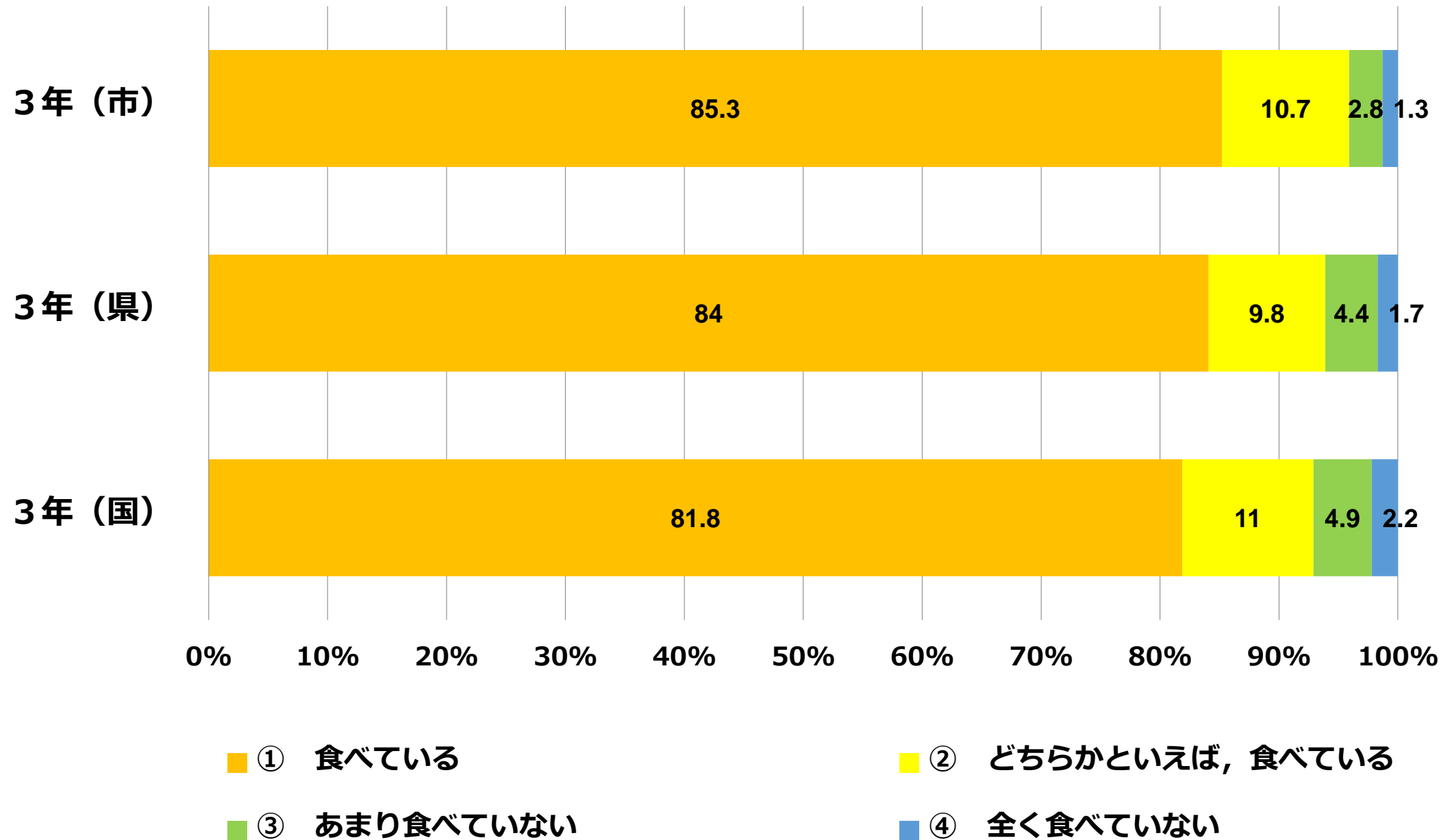
# 携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、 家の人と約束したことを守っていますか



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



# 朝食を毎日食べていますか



## (2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（中学校）

- 国語の調査では、県比0.02、全国比0.06下回った。数学は県比0.02、全国比0.04下回った。国語の正答数分布グラフでは、高得点層が全国や県より少ない。数学の正答数分布グラフでは、中得点層が多い。国語、数学ともに中得点層の底上げが求められる。
- 意識調査の「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に対して、県を7.6ポイント、全国を7ポイント上回っていた。また、「自分にはよいところがありますか」という質問に対しては、肯定的回答が県を5.1ポイント、全国を5.3ポイント上回っていた。
- 意識調査の「自分で計画を立てて勉強していますか」という質問に対して、県を6.1ポイント上回った。また、意識調査の平日の家庭での学習時間（1時間以上）の結果は、県を若干上回ったが、全国を6.6ポイント下回っている。特に2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合は全国と比較すると、11.8ポイント下回っており、家庭学習の習慣化は引き続き課題といえる。
- 意識調査の「普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問に対して、2時間以上していると回答した生徒は約50%いた。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して肯定的回答をした生徒は約60%いたが、「約束はない」と回答した生徒が約25%いた。
- 意識調査の「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に対して、10分以上読書をしていると回答した生徒は約半数おり、全くしないと回答した生徒が約40%いた。

## 2 改善に向けた具体的な取組

**【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】**

### ○学習状況調査結果を受けて

- 正答数分布グラフに見られるように、中得点層の底上げと高得点層の拡大が課題である。
- 誤答分析を行って、課題を見つけ、授業や宿題等で補充学習する機会を必ず設ける。
- 新学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法の改善や職員の指導力向上に努める。
- タブレットドリルを活用し、基礎学力の向上を図る。
- 武雄市では、県からの指定や委託を受けて、研究、実践に取り組んでいく。指定校や実践校での取組を市内の小中学校に広げるために、公開授業等への積極的な参加を奨励する。

## ○意識調査の結果を受けて

- 学校が楽しくないと思う生徒が約20%いることから、活躍の場の創出を通して生徒一人一人の居場所づくりを進めていく。
- 「将来の夢や目標をもてる」ように、キャリア教育に一層力をいれて取り組んでいく。
- 「自分で計画を立てて勉強する」習慣をつけるために、計画を立てて学習することの大切さについて各学校でさらに指導していくとともに、各学校で配布している家庭学習の手引きを一層活用していく。また、平日「家庭学習を2時間以上している」生徒の割合が約30%程度、休日は、約40%であることから、自分の学習計画と実際の学習時間の相関関係についても、生徒自身が振り返る機会を必ず設ける。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方については、今後も家庭と連携して進めていきたい。
- 読書の大切さについて理解させ、一人一人に目標を設定させたり、本に親しめるような取組を考えたりして、読書活動を奨励していく。